

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（4月）

大阪府内の4月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策について、お知らせします。

春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法（短期暴露評価）が導入されることに伴い、登録変更（変更申請中のものを含む）によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。  
詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

「病害虫防除グループホームページ 防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

「短期暴露評価により変更される農薬の使用法の周知等について」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27\\_top.html](http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27_top.html)

目次

1	水稲	P. 1
2	ぶどう	P. 2
3	もも	P. 2
4	いちじく	P. 3
5	野菜（たまねぎ、トマト、なす）	P. 3~4

# 病害虫発生・防除情報メールサービス（4月）

## 1 水稻

### 《防除時の注意点》

- いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を実施しましょう！

#### 【種子消毒】

温湯消毒の場合の注意

- ◆乾燥した種子または塩水選後1時間以内の種子を使用する。
- ◆60度の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。
- ◆処理した種子は、できるだけ速やかに浸種し催芽を行うか、病原菌が付着しない条件下で風乾後、冷暗所に保管する。

薬剤を使用する場合の注意

- ◆テクリードCフロアブル、スポルタックスターナSE等で消毒する。
- ◆消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

#### 【育苗準備】

- ◆育苗箱などの資材は使用前にケミクロンG、イチバン等で消毒する。

#### 【イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）】



- ◆育苗期間中の苗が高温多湿になりすぎないように、温度管理と灌水を適正に行う。

#### 【苗立枯病】

- ◆発生を認めたら、ダコニール1000（リゾープス菌）、タチガレースM液剤（ピシウム菌、フザリウム菌）、バリダシン液剤5（白絹病菌、リゾクトニア菌）、ベンレート水和剤（トリコデルマ菌）等をかん注する。

#### 【縞葉枯病】（ヒメトビウンカ）



- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆育苗ほかにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。

## 2 ぶどう

### 《防除時の注意点》

■ハウス内の湿度が高くなりすぎないように、注意しましょう！

#### 【灰色かび病】



- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤（45日前まで）等を散布する。

#### 【ハスモンヨトウ】



- ◆ 卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。
- ◆ 発生が見られたら、フェニックス顆粒水和剤（14日前まで）、エクシレルSE（前日以前まで）等を散布する。

## 3 もも

### 《防除時の注意点》

■昨年、せん孔細菌病が多発しました。向こう1か月は平均気温は高め、降水量は平年並みか多い見込み（※1）で、今年も発生しやすい条件となります。発生が多い園地では防除を徹底しましょう！

#### 【せん孔細菌病】



- ◆ 春型枝病斑は見つけ次第、樹に病斑部を残さないよう健全芽も数芽含めて摘除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バリダシン液剤5（7日前まで）、スターナ水和剤（7日前まで）、マイコシールド（21日前まで）を散布する。
- ◆ 開花後は薬害が発生するので、ICボルドー412は散布しない。

（※1）4月13日大阪管区气象台1か月予報 気温及び降水量の確率

【気温】低い10%、平年並30%、高い60%

【降水量】低い20%、平年並40%、多い40%

## 4 いちじく

### 【霜対策】

- ◆霜除けは、遅霜の心配がなくなってから除去する。
- ◆霜害にあい樹勢が低下すると、カミキリムシ類など病害虫の被害を受けやすい。

## 5 野菜（たまねぎ、トマト、なす）

### 《4月前半の病害虫発生状況》

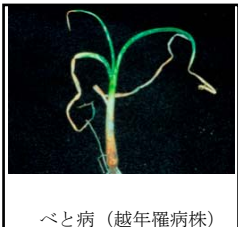
品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
たまねぎ				べと病		
			白色疫病			
			ネギアザミウマ			
トマト			葉かび病・すすかび病			
			コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病(TYLCCV)			
なす			アザミウマ類			
			すすかび病・灰色かび病			

### 《防除時の注意点》

■昨年の春期に多発生しました。1か月予報（※1）によると、今年も本病の発生しやすい条件のため早めの防除が大切です。発生前の予防散布を必ず行いましょう。

<たまねぎ>

### 【べと病】



◆苗床・定植後に作物残さなどから感染し、越冬罹病株として2～3月に病徴を現すことが多く、2次病斑（普通見られるべと病）の感染源となる。2月下旬～4月上旬の巡回調査で、越冬罹病株を確認している。（病害虫防除情報3月27日発表）

◆予防散布として、ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤（3日前まで）、ランマンフロアブル（7日前まで）を散布する。

◆発生（2次病斑）を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）、プロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）、ザンプロDMフロアブル（7日前まで）を散布する。

※（べと病・白色疫病対象）リドミルゴールドMZ（3回）と（べと病・白色疫病対象）ジマンダイセン水和剤（5回）と（べと病のみ対象）ペンコゼブ水和剤（5回）は、同一成分マンゼブを含み総使用回数は5回以内。

（※1）4月13日大阪管区气象台1か月予報 気温及び降水量の確率

【気温】低い10%、平年並30%、高い60%

【降水量】低い20%、平年並40%、多い40%

### 【白色疫病】



- ◆温暖で雨が続くと発生しやすい。
  - ◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ジマンダイセン水和剤（3日前まで）、ランマンフロアブル（7日前まで）を散布する。
  - ◆発生を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）かプロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。
- ※（べと病・白色疫病対象）リドミルゴールドMZ（3回）と（べと病・白色疫病対象）ジマンダイセン水和剤（5回）と（べと病のみ対象）ペンコゼブ水和剤（5回）は、同一成分マンゼブを含み総使用回数は5回以内。

### 【ネギアザミウマ】



- ◆成虫は黒色または淡黄色（約1.5mm程度）、幼虫は淡黄色（約1mm）。被害部は小斑点となる。早春から発生し、温度の上昇とともに増加する。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（7日前まで）、プレオフロアブル（3日前まで）を散布する。

■発生は平年並ですが、抵抗性品種ではない場合は注意が必要です。

<トマト>

### 【葉かび病・すすかび病】



- ◆発生前に、ダコニール1000（前日まで）、ベルコートフロアブル（前日まで）を散布し、発生を認めたらトリフミン水和剤（前日まで）、アフエットフロアブル（前日まで）を散布する。
- ※トマトとミニトマトで登録内容が異なる場合があるので、農薬ラベルをよく確認すること。

■暖かくなり病害虫が増えやすくなってきました。初期防除（予防散布）を徹底しましょう。

<なす>

### 【アザミウマ類】



- ◆発生が見られたら、ディアナSC（前日まで）、プレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、モペントフロアブル（前日まで）を散布する。

### 【すすかび病・灰色かび病】



- ◆保温のためハウスを閉め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げるなど注意する。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を、発生を認めたらトリフミン乳剤（すすかび病）（前日まで）、カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を散布する。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」 (<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>) を参照してください。

農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

今回の情報は、5月15日頃にお知らせします。